鎌倉街道周辺遺跡
現地説明会資料

日時：２００５年６月２５日（土）
主催：（財）愛知県教育サービスセンター
　　愛知県埋蔵文化財センター
支援：安西工業株式会社

調査区・尾張国府・下津北山遺跡方面を望む

鎌倉街道周辺遺跡の位置

鎌倉街道周辺遺跡は稲沢市東部にあり、赤池東山町から下津下町まで広がる遺跡です。現在の青木川西岸に位置し、標高約 7m の沖積低地に立地します。遺跡の中央部で現在の下津小学校付近に下津城跡があり、15 世紀にはそこに尾張守護所があったと伝えられます。また遺跡の西方 2～3km には古代の尾張国府跡があったとされています。

１面目の遺構（鎌倉～室町時代）

発掘調査の経緯

発掘調査は、県道名古屋豊山稲沢線道路改良工事に伴う事前事業として、平成 17 年４月から９月までの予定で実施しています。面積は 1678 ㎡で、Ａ区とＢ区の２調査区に分けて行っています。今回はＢ区の発掘調査成果をご覧いただきます。

９世紀以降の掘立柱建物

発掘調査の成果

これまでに、奈良時代から江戸時代までの様々な遺構や遺物が発見されました。特に奈良時代と鎌倉・室町時代では良好な状態で遺構が残っていました。

1、　奈良時代から平安時代（図１-5～7）

現在の段階で７世紀後半くらいから人々が生活を始めたと考えられ、８世紀から９世紀にかけての竪穴住居が 20 棟以上見つかっています。また、９世紀以降には掘立柱建物が１棟発見されています。

2、　鎌倉時代（図１-3・4）

平安時代末期から鎌倉時代では、溝で囲まれた屋敷地などが見つかりました。溝は幅が 1m 前後のものや 4m に及ぶものまであり、井戸も発見されています。建物跡はよくわかりませんでした。

3、　室町時代（図１-2）

溝１条と、それに平行する形で掘立柱建物が２棟以上あったことが分かりました。溝は屋敷地を区画するものと思われ、鎌倉時代の溝とは方位が異なります。

２面目の遺構（奈良～平安時代の竪穴住居）

4、　江戸時代後半から現代まで（図１-1）

江戸時代に岐阜街道が設置され、下津にも街道に沿って屋敷が並んでいました。調査では 18 世紀後半以降の屋敷裏の溝、畑、水田跡などが発見されました。今回の調査地点は「下津新町」であり、この部分が屋敷として利用されたのは 18 世紀後半頃からではないかと考えられます。

まとめ

今回の調査の結果、少なくとも奈良時代以降継続して集落が営まれていたことが分かりました。調査区の北西には、現在宮田用水が流れ、周辺が水田となっています。また古い地図（明治 17 年作成地籍図）によれば、水田の並びが下津蛇池町（図２のＡ地点）から蛇行しながら現在の稲沢駅方面（図２のＢ地点）に向かっており、これが古い河川の痕跡と推定されます。今回の調査地点は、この古い河川によって形成された自然堤防の微高地に当たっており、集落を形成するのにふさわしい場所であったといえるでしょう。

また、尾張守護所が下津にあった室町時代では、調査区が居館のあった場所（下津城跡推定地）からそれほど離れていないことから、中世「下津」の一角を担う集落であった可能性も考えられます。

1、江戸時代後半の遺構
（18世紀後半～）
溝
溝
←屋敷？
畑？
井戸
水田
0
10m
2、室町時代の遺構
（14～15世紀）
古い溝の名残
古い溝の名残
溝
掘立柱建物
屋敷
掘立柱建物
0
10m
3、鎌倉時代の遺構
（12世紀末～13世紀）
溝
溝
溝
屋敷？
屋敷？
溝
0
10m
4、平安時代末期～鎌倉時代前半の遺構
（12世紀中頃～後半）
溝
屋敷？
井戸
溝
0
10m
5、平安時代？の遺構
（9世紀か？）
掘立柱建物
竪穴住居
竪穴住居
0
10m
6、奈良時代？の遺構１
（8世紀後半か？）
竪穴住居群
0
10m
7、奈良時代の遺構２
（8世紀前半か？）
竪穴住居群
0
10m

図１　遺構の変遷

図２　調査区周辺の様子

（明治17年作成地籍図を改変して作成）